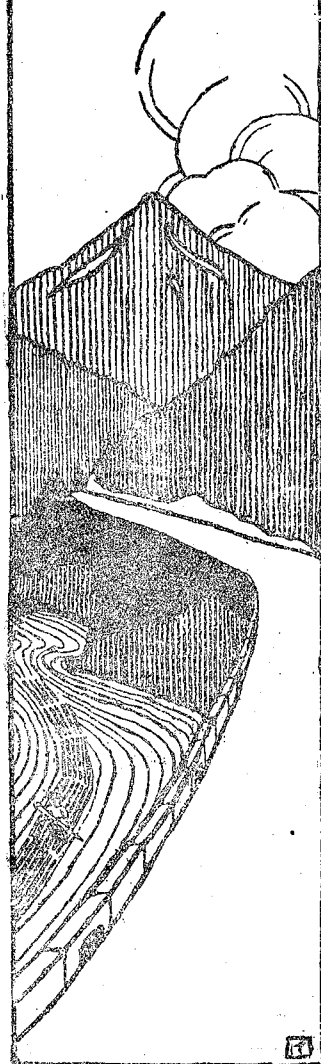


紹介



## 德島縣門戶の二大橋

德島縣報告主任

吉野川勝浦川那賀川この三大河川の治水に多年奮闘せし  
わが縣は、此の三大河川の何れにも唯一個所の橋梁もなく  
交通不便の點に於ても亦全國的に知られたが、國運の發展  
は地方産業の振興となり交通機關の完備を要すること切實  
となるので、道路法の制定せらるゝや、わが縣は十一大橋  
梁の架設計畫を樹立し、大正十年の縣會に於て工費五百四

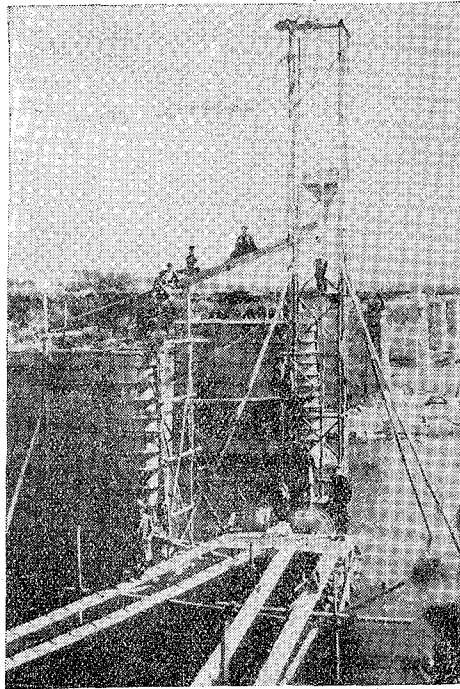
十五萬圓、十箇年繼續事業として遂行することを決し、爾  
來多端なる縣財政を鹽梅して當局官民一致着々事業の實施  
を計り、その第一として恰も横濱東京を聯絡するが如き關  
係にある德島小松島間、また南阿より高知に通ずる主要道  
路たる勝浦川大松川に二大橋梁の實現を見、大德島市に都  
市計畫の將に行はれむとし小松島港の大修築着々行はれつ

つある徳島縣の門戸に一大偉觀を現出し、本日その紀念すべく意義ある開通式典を舉げた。殊に十一大橋梁はその最大なる古川橋に着手せんとし、雖工白地橋の設計又成るの歡びの日次ぐ茲に其概要を記述することにした

### 概要

勝浦川、大松川の兩橋は共に徳島立江線筋勝浦川及其の支流大松川に夫々架設せられた最近式の鐵筋コンクリート公道橋にして勝浦郡藤占村と小松島の間に介在す。

徳島市と南阿、那賀兩郡との交通は縣道立江線並に徳島小松島線を主要道路として利用しつゝあるが、大松勝浦の兩大河横たはり架するに大橋なく唯前原、江田、大松、西



橋脚混凝土打立

須賀の四ヶ所に貧弱なる木造の賃取假橋の設けあるのみであつて、辛ふじて交通の連絡を保ちつゝあつたのである。

大松川及び勝浦川兩橋は十一大橋梁計畫の中のものであ

つて慎重調査を遂げ近代交通大勢に順應して増田囑託技師これを設計し、大正十三年二月起工し爾來一ヶ年九ヶ月、今日大正十四年十一月八日開通するに至つた。

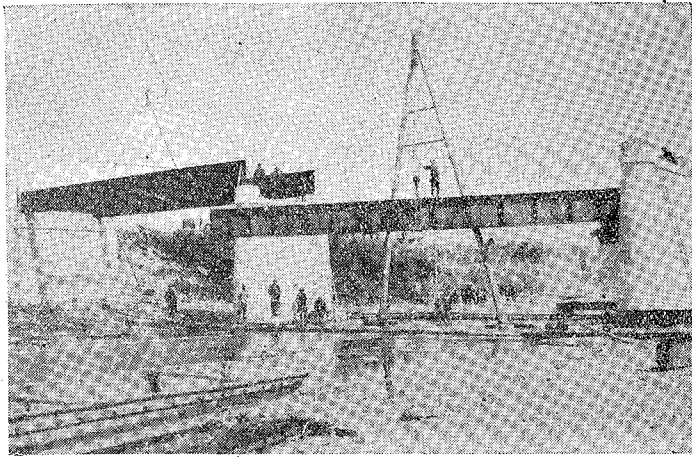
### 本橋設計の主眼

將來徳島市と小松島町との連絡大道の建設並に小松島港の完成後の交通の頻繁を豫期して、縣道橋ではあるが、準國道橋として各部の設計を耐久耐震の構造となし其上市街橋として遺憾なき様欄干、電燈の装ひを凝らし以て外觀の美を發揮せしめた。

### 設計大要

#### 勝浦川橋

- 一 路線 縣道徳島立江線
- 二 地點 勝浦川筋勝浦郡小松島町
- 三 橋長 五百二十九尺(直橋)
- 四 有效幅員 二十四尺
- 五 反り 縦拋物線形にて一尺の「反り」横四十八分の一
- 六 橋梁構造
  - イ 鐵桁包装鐵筋コンクリート 桁六十尺徑間四連鐵筋コンクリート三連續桁四十尺徑間六連
  - ロ 鐵筋コンクリート橋脚九基
  - ハ 鐵筋コンクリート橋臺二基
  - ニ 橋面鋪裝は最新の「ソリデチット」工



ホ 親柱及欄干は鐵筋コンクリート人造石仕上

#### 大松川橋

- 一 路線 縣道徳島立江線
- 二 地點 大松川筋勝浦郡小松島と勝占村に架す
- 三 橋長 五百五十九尺(斜橋)
- 四 有效幅員 二十四尺
- 五 反り 縦拋物線形にて一尺の「反り」横四十八分の一
- 六 橋梁構造
  - イ 鐵桁包装鐵筋コンクリート 桁五十四尺徑間五連
  - ロ 鐵筋コンクリート橋脚十基
  - ハ 鐵筋コンクリート橋臺
  - ニ 橋面鋪裝は最新の「ソリデチット」工

ホ 親柱及欄干鐵筋コンクリート人造石仕上

## 橋脚工事

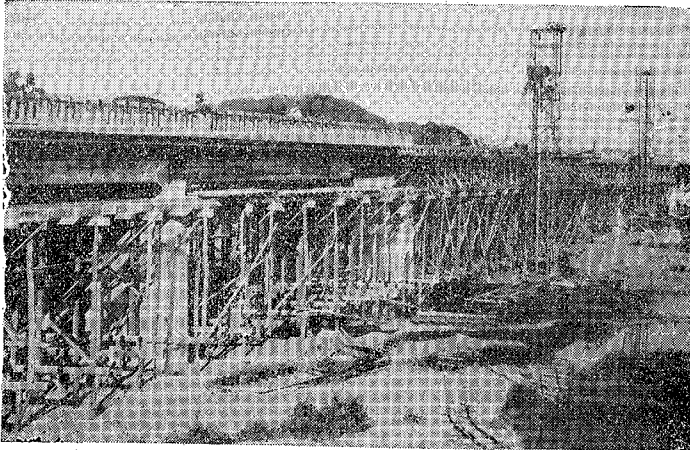
土質は砂利層にして支持力は極めて大なれ共浚渫の威力も亦烈しきを以て既竣鐵道橋其他河中の構造物より慎重に調査し基礎の深さを決定した。

長徑間(流身部)の橋脚は徑十尺、深さ十七尺五寸、厚さ一尺の井筒二個

短徑間(耕作地)は徑九尺、深さ十五尺、厚さ一尺の井筒二個を沈下せしめ後中埋「コンクリート」を施行して基礎を築造した。

## 橋臺工事

兩橋臺は何れも流水を妨げざる様位置を選定し根入は橋脚より淺くした、即ち縱十一尺、横十尺、深さ十三尺、厚さ二尺の沈井箱二個を下けて中埋「コ



ンクリート」を施行して橋臺軀體を築造し、軀體の背後左

右に擁壁を巡らして取合道路との連絡を滑ならしめた。

## 橋體工事

主桁及路床の足場組立  
 橋體構造は國道荷重二千百貫の車輛十二米噸轉壓機又は一平方尺に付き、十二貫の群衆の通過に耐ふ一徑間に幅二尺の主桁二本づゝ十七尺の距離に並べ縱横の小桁にて連絡固定せしめた、主桁の外側に四尺の掛け出しを施して路面幅を擴げた。

## 裝飾

橋上には高さ三尺鐵筋コンクリート人造石仕上げの高欄を設け兩橋詰には、人造石の豪壯華麗なる親柱及び高欄を設く、親柱には橋名及竣工年月を刻せる青銅板を取付け頂上に電燈五個を仰向けに取付け、橋上にも數個の電

燈を取付け、夜間交通の安全を計つた、兩橋の橋名額其他の揮毫は青年書家後藤幽谿氏の建筆になる。

前後取合道路

(イ) 徳島小松島線改修

延長 二百七十四間二分幅三間

(ロ) 徳島立江線改修及新設

延長 三百四十九間八分幅西須賀及兩橋間は五間幅前

原は三間

勾配 三十分ノ一—四十分ノ一

構造物 江田陸橋、馬蹄型、暗渠、函型暗渠

勝浦橋を渡りて一路直進する道路は將來小松島町都市計

畫路線の決定を待ちて遂行す。

工事執行方法

總て請負により橋梁は神戸市山本平三郎氏道路は小松島

町庄野佑吉氏が施行した。

工 費

大松川橋梁費 拾參萬七千五百六拾六圓

橋梁一面坪當り 參百六拾圓

勝浦川橋梁費 拾貳萬六千八百八拾圓

橋梁一面坪當り 參百五拾圓

取合道路費 拾壹萬貳千四百八拾四圓

雜費 千六百圓餘

合計 參拾七萬七千八百餘圓

主なる使用材料

	勝浦川橋	大松川橋	合計
結構鋼材	七二五〇噸	八一〇〇噸	一五三、五〇噸
鐵筋	九〇、二四噸	一〇〇、〇〇噸	一九〇、二四噸
セメント	三、二二八噸	三、五四四噸	六、七七二噸
ソリデ	三〇四	三二二	六二七
チツト	立坪	立坪	立坪
砂	二七三	三〇〇	五七三
砂利	一三七	一五〇	二八七